『語学研究所論集』第 12 号 (2007), pp.61-72

クメール語の名詞句における反復表現について

上田 広美

1. はじめに

クメール語の語彙の特徴の一つに反復[1]表現がある．Ourn ; Haiman (2000:489) は，このような反復表現の代表例である随伴語[2]の豊富な用例を挙げており，同様の語彙は他言語にも見られるとはいえ，クメール語の随伴語は口語，文語を問わず使用頻度が高いことに注目している．坂本（1988:1489）は，随伴語とは，「それ自体は単独で用いることができず，他の特定の語，すなわちkmaaŋ[3]の場合にはkmeeŋ『子供』，kbaanの場合にはcaan『皿』と共にしか用いることのできないものである．そして，その機能は名詞の場合は総称，形容詞などの場合には強意となることが多い」とし，「前につくものもあれば，後ろにつくものもある．さらに頭韻または脚韻などの韻をふんでいるものがほとんどであり，単音節言語によくみられる，口調を整え，意味を明確にし，誤解を防ぐための一種のくり返し的性格がみられ」ると述べている．

このように随伴語は韻を踏んだ語をくり返すことで，総称や強意を表しているが[4]，クメール語の文には，より使用頻度は低い[5]とはいえ，同一の語を反復する表現も現れる．一例を挙げれば，/kmeeŋ/＜（大人に対する）子ども＞という語に対し，随伴語を用いた/kmeeŋ kmaaŋ/と，同一の語を単純に反復させた/kmeeŋ kmeeŋ/の両方が可能である．また名詞のみではなく，/juu/＜長い（時間）＞，/cah/＜古い＞等，形容詞の反復も可能であり，とくに擬音語・擬態語[6]には頻繁にみられる．しかし，すべての語が反復可能なわけではない．

このような同一の語の反復については，クメール語の入門書，文法書に若干の記述があるのみである[7]．いずれの先行研究もその性質上，紹介される用例は語句に限られ文中での用法は挙げられておらず，反復の制限についても述べられていない．名詞に関しては，反復により複数を表すとしている点は共通している．Huffman (1967:129-132)は，上述の随伴語を含む部分的な反復と，本稿で扱う語全体の反復を分け，後者を生産的な反復複合語とし，複数（名詞），一般化（名詞），強化（形容詞）など，反復される品詞によって異なる機能をもつこと，反

復によって品詞の異なる語を派生させる（数詞から副詞[8]など）ことを指摘している．Jacob (1968:188-193)は，随伴語も同一の語の反復も反復複合語とし，統語的な反復[9]とは別のものとした上で，複数，意味の強化もしくは制限を表すとしている．Khin (1999:84-85)は，正書法の章で，重複を表す記号[10]を挙げ，複数，配分，強調などの機能に分類している．クメール語の正書法について解説した Nuon; Nhok(1955:50-52)は，この記号はクメール語の語彙にのみ用いるもので，パーリ語からの借用語を反復する際には，この記号を用いるのではなく，語を二度綴る必要があるとし，それぞれの例を挙げているが，反復の意味については述べていない．

筆者は名詞句全般を扱った上田・岡田（2006:58-60）において名詞句の複数表示について検討する過程で，ヒトを表す名詞の一部は名詞の反復によって，モノを表す名詞は後続する形容詞の反復によって複数を表すことが可能であることを示したが，名詞や形容詞の反復制限については検討課題を残した．本稿の目的は，名詞句における名詞や形容詞の反復例をさらに検討し，どのような語が反復可能であるのか，また一般に複数表示をしないクメール語において，反復によってあえて複数を表すことが，形容詞の意味の強調と考えられるその他の機能とあわせて統一的に説明可能であるかを考察することである．考察の過程で，形容詞が述語となっている文も扱うが，主に名詞句に限定するのは，擬音語・擬態語をのぞけばこの反復表現が名詞句内で使用されることが多く，名詞句内で反復可能な形容詞であっても名詞句外では反復不可能なことがある（３．２．で後述）からである．資料は現代語文[11]を使用する．

2. 名詞の反復

本章では，名詞の反復について検討する．Huffman (1967)は，名詞の反復の例として，/srəj /＜女＞，/kmeeŋ/＜子ども＞，/proh/＜男＞を挙げ，反復することで複数，一般化を表すとしている．同じく Jacob (1968)は，/proh/＜男＞を挙げ，反復することで複数，一般化を表すとしている．Khin (1999)も，/srəj /＜女＞，/kmeeŋ/＜子ども＞という同じ例を挙げた上で，反復は複数を表すとしている．いずれも文中での用例も，ヒト以外のものを表す名詞の用例も挙げていない．以下，反復可能な名詞の制限について，さらに，反復することで複数と一般化を表すのかについて検討する．

2.1. ヒトを表す名詞の反復制限

以下の例（1a）は，寺子屋で学んだ過去を回想した随筆の一部であり，反復表現で示される/kmeeŋ kmeeŋ/＜子どもたち＞とは，この文章で述べられている特定の寺院に寄宿して読み書きを習っていた複数の子どもたちをさす．この寺院には，複数の僧侶がおり，その一人一人に複数の生徒がいたのであるが，/prèəh sɔŋ/＜僧＞は反復されない．

(1a)	prèəh sɔŋ	jɔ̀ɔk	cət	tòk	dak	bɔŋriən
	僧	取る	心	とっておく	置く	教える
	ʔaksɔɔ	kmeeŋ kmeeŋ [12]				
	文字	子どもたち				

＜僧は念入りに子どもたちに文字を教えた＞ (KMV)

例（1a）から/prèəh sɔŋ/＜僧＞を反復することは不可能ではないが，この文脈では不自然である [13]．語としては反復可能であるのに，文中で許容されない用例については２．２．と２．３．でも述べる．

名詞の反復表現が最も自然に感じられる文脈とは，次の例（2）のように，さまざまな種類のヒトが混在する集団を，その種類ごとにいくつかのグループに選別しているような状況である．

(2)	dak	prèəh sɔŋ prèəh sɔŋ	nə̀v	khaaŋ	nih
	置く	僧	に	側	これ

＜僧侶の方々はこちらに（信徒の方々はあちらに）＞

以下，例（2）のような状況で，どのような名詞が反復可能であるかを調べた結果を示す．まず，ヒトを表す名詞としては，Huffman（1967），Jacob（1968），Khin（1999），Nuon ; Nhok（1955）で例示されていた，/proh/＜男＞，/srəj/＜女＞，/kmeeŋ/＜（大人に対する）子ども＞，/taa/＜爺＞，/jèəj/＜婆＞の他，/koon/＜（親に対する）子ども＞，/ʔəv/＜父＞，/mae/＜母＞，/puu/＜叔父＞，/miiŋ/＜叔母＞，/cav/＜孫＞，/bɔɔŋ／＜年上のきょうだい＞，/pʔoon/＜年下のきょうだい＞，/kmuoj/＜甥姪＞が反復可能であった．また親族名称以外にも，/mèe/＜長＞，/lòok/＜男性の敬称＞なども反復が可能である．以上の語はすべて単音節語であるが，Nuon; Nhok（1955）でも例示されていた，/kɔmlɔh/＜青年＞，/krɔɔmom/＜少女＞に加え，/cɔ̀mtèəv/＜夫人＞，/prɔɔthèən/＜上司＞といった２音節語であっても，あるいは，/lòok kruu/＜先生（男）＞，/nèək kruu/＜先生（女）＞，

/lòok srəj/＜女性の敬称＞のように２語の連続であっても反復は可能である．

一方，親族名称であっても，/cii taa/＜祖父＞，/cii doon/＜祖母＞は反復できない．このことはこの２つが上述の/taa/＜爺＞，/jèəj/＜婆＞と異なり呼称として用いられないことと関連すると考えられる．また２語の連続である/bɔɔŋ proh/＜兄＞，/pʔoon srəj/＜妹＞なども単純な反復はできないが，例（3）に示す通り，第一構成要素（名詞）と第二構成要素（修飾語となる名詞）をそれぞれ反復させた/bɔɔŋ bɔɔŋ proh proh/，/pʔoon pʔoon srəj srəj/は文脈によっては可能である．クメール語の親族名称は親族以外に対する一般的な呼称としても用いられ，例（3）では話者から見て年上の女性という意味で解釈される．例（4）のように＜（自分のきょうだいとしての）姉がたくさんいる＞の意味では反復表現は用いられない[14]．

（3）　nàv　bɔntòp　nih　mèən　bɔɔŋ bɔɔŋ srəj srəj
　　に　部屋　これ　いる　年上の女性
　　＜この部屋には，女性たちがいる（他の部屋に男性たちがいる）＞

（4）＊ kɲom　mèən　bɔɔŋ bɔɔŋ srəj srəj
　　私　いる　姉
　　＜私には，姉たちがいる＞

以上のことから，ヒトを表す語彙の中で，本来のクメール語の語彙[15]，とくに呼称として用いられるものは反復可能なものが多いと考えられる．一方，借用語の反復には制限がある．クメール語語彙中で最も古くから借用されたパーリ語，サンスクリット語からの借用語に関しては/nèək/＜ひと＞，/mɔ̀ɔnuh/＜人間＞，/satrəj/＜女＞，/koʔmaa/＜子＞は反復ができないが，/boʔrɔh/＜男＞，/saastraacaa/＜教授＞，/səh／＜生徒＞，/nissət/＜学生＞は反復が可能である．また，フランス語からの借用である/baaraŋ/＜フランス人＞，/capon/＜日本人＞も反復可能である．

2.2. モノを表す名詞の反復制限

ヒト以外を表す名詞は，上田・岡田（2006:58-60）で述べた通り，基本的に反復できないため，例えば魚の数が数が多いことを示す場合には，/trəj trəj/ではなく，/trəj craən/＜魚＋多い＝たくさんの魚＞とする．しかし，ヒトを表す名詞が例（2）のようなさまざまな種類のものを選別する文脈であれば反復されやすかったように，ヒト以外を表す名詞であっても例（5）のような文であれば，/caap/

＜スズメ＞，/pkaa/＜花＞，/plae/＜実＞，/slək/＜葉＞，/krooc/＜みかん＞などが反復可能である[16]．

(5)　pkaa pkaa　dak　mdom
　　花　置く　一塊
　　＜花は花で集める＞

上述したように/mɔ̀ɔnuh/＜人間＞は反復不可能である．また，/sat/＜動物＞も反復できない．このことに加え，例（6-9）から，総称を表す名詞は反復不可能であると考えられる．まず，/kòo/＜牛＞，/mɔən/＜鶏＞は，例（6）のような単純な反復は不可能であるが，更に細分化した種類を表す例（7）であれば可能である．

(6) ＊ kɲom　ceɲcəm　mɔən mɔən　nɯŋ　kòo kòo
　　私　飼う　鶏　と　牛
　　＜私は，たくさんの鶏と牛を飼っている＞

(7)　mɔən sɔmpəv mɔən sɔmpəv　dak　khaaŋ　nih
　　地鶏　置く　側　これ
　　mɔən cae mɔən cae　dak　khaaŋ　nuh
　　チャボ　置く　側　それ
　　＜地鶏はこっちへ，チャボはあっちへ＞

また，単純に複数であることを示す例（8）は不可能であるが，犬の品評会などであれば，例（9）は可能である[17]．

(8) ＊ nə̀v　tii　nih　mèən　ckae ckae
　　に　場所　これ　いる　犬
　　＜ここに，犬がたくさんいる＞

(9)　ckae belcii ckae belcii　dak　khaaŋ　nih
　　犬　ベルギー　置く　側　これ
　　ckae kmae ckae kmae　dak　khaaŋ　nuh
　　犬　カンボジア　置く　側　それ
　　＜ベルギー犬はこっちへ，カンボジア犬はあっちへ＞

他にモノを表す名詞として，/cmaa/＜猫＞，/svaa/＜猿＞，/cruuk/＜豚＞，/krɔɔbəj/＜水牛＞など動物を表す名詞，/daəm/＜樹（の幹）＞，/mlih/＜ジャスミン＞など植物を表す名詞，/daj/＜手＞，/cə̀əŋ/＜足＞，/mòk/＜顔＞，/pnɛ̀ɛk/

＜目＞など身体の一部を表す名詞，/rɔ̀ɔbɔh/＜物＞，/baaj/＜飯＞，/tɯk/＜水＞[18]，/mhoop/＜料理＞，/rɯəŋ/＜話＞，/siəvphàv/＜本＞，/vɔət/＜寺院＞，/saalaa/＜学校＞などのいずれも反復はできない．

以上のことから，名詞の反復に関して，①ヒトを表す名詞よりモノを表す名詞の方が，②ヒトを表す名詞であっても本来のクメール語語彙より借用語が，③総称を表す名詞が，それぞれ制限を受けると考えられる．また，語としては反復可能であっても，文脈によっては制限を受けることがある．

2.3. 名詞の反復が表す意味

Huffman (1967)，Jacob (1968)，Khin (1999) では，名詞の反復は複数もしくは一般化を表すとしているが，クメール語では一般に複数表示をしない．上田・岡田 (2006:58-60) で述べた通り，名詞の前に/puok/＜集団＞などの語を，あるいは名詞の後に/klah /＜いくつか＞などの語を付加することで複数を明示できるが，基本的に，ある名詞が表すものが単数であるか複数であるかは文脈によって判断される．例（1a）は/kmeeŋ/を反復させない例（1b）も可能であり，文脈によって，教える僧も教えられる子どもも，どちらも一人であるとも複数であるとも解釈できる．/prɛ̀əh sɔŋ/＜僧＞のみを反復させることも可能である．また，例（1a）と例（1b）では，反復する例（1a）は特定の子どもたちを，反復しない例（1b）の方が一般の子ども（たち）を表していることから，反復が一般化を示すとはいえない．

(1b)	prɛ̀əh sɔŋ	jɔ̀ɔk	cət	tòk	dak	bɔŋriən
	僧	取る	心	とっておく	置く	教える
	ʔaksɔɔ tàv	kmeeŋ [19]				
	文字 に	子ども				

＜僧は念入りに（一般の）子どもたちに文字を教えた＞

このことから，例（1a）では，単に複数を明示するために反復させているというよりも，教える側と教えられる側がどちらも複数であっても，その人数の差があるために，より数の多い方を反復していると考えられる．

モノを表す名詞の反復は文脈による制限が多く，次の例（10）では，例（5）で反復が可能であった名詞/pkaa/＜花＞は反復できない．

(10)	* nàv	suon cbaa	nih	mèən	pkaa pkaa
	に	庭	これ	ある	花

craən　　nah

たくさん　　とても

＜庭には，花がたくさんある＞

しかし，同じ名詞/pkaa/＜花＞は例（11）では反復が可能であり，服の柄が明確に確認できない場合に用いられる．柄が確認できる場合には，花柄が単数でも複数でも/pkaa/＜花＞は反復されない．

（11）　kɔət　pɛ̀ək　ʔaav　pkaa pkaa

彼女　着る　服　花

＜彼女は花柄らしい服を着ている＞[20)]

以上のことから，名詞を反復する表現は，単に複数であることを明示するというよりも，何かと対比してより数が多い，名詞そのものが表す意味とは少し異なるなど，何らかの多様性を表す場合に用いられると考えられる．

3. 形容詞の反復

本章では形容詞の反復について検討する．先行研究中では，Huffman（1967）は，/pseeŋ/＜他の（反復されると「いろいろ」）＞，/tooc/＜小さい＞，/kpɔ̀h/＜高い＞の反復例を挙げ，強意や複数を表すとしている．Khin（1999）は同様の例の他，/kləj/＜短い＞，/thom/＜大きい＞，/cŋaaj/＜遠い＞の反復例も挙げ，強意を表すとしている．また，反復される形容詞の母音が引き伸ばされる音声特徴を指摘している．Jacob（1968）は，随伴語も含めた形容詞の反復は，それが修飾する名詞の複数を表すとしている．

3.1. 複数を表す場合

例（12a）では，名詞ではなく形容詞/sʔaat/＜美しい＞が反復されているが，＜非常に美しい一人の女性＞というように＜美しい＞が強められているとは解釈されず，女性は複数名おり，各人それぞれの美しさを表すと解釈される．

（12a）　srəj　sʔaat sʔaat

女　美しい

＜美しい女性たち＞

名詞と形容詞をともに反復させる例（13）も可能であり，この場合も例（12a）と同様，女性は複数であると考えられる[21)]．

(13) nəv khòm taanii mèən srəj srəj sʔaat sʔaat
に 村 (村名) いる 女 美しい
<タニー村には美人が多い>

前章で述べたようにモノを表す名詞の多くは反復が不可能であったが，名詞を修飾する形容詞は反復できる．次の例（14）は，子ども用の物語集シリーズのタイトルである．形容詞を反復させない場合にも物語は複数であり得るが，反復することで<とても良い話>ではなく，<さまざまな良い話>と解釈される．

(14) rɯəŋ lʔɔɔ lʔɔɔ sɔmrap koʔmaa
話 良い ための 子ども
<子どものための良い話> (RSK)

例（15）も同様に<とても大きなマンゴーの木>ではなく，<大木が複数ある>と解釈される．例（16）でも<とてもおいしいコーヒー>ではなく，<いろいろなおいしさのコーヒー>があると解釈される．

(15) kɲom kɔ̀ɔj kɔ̀n məəl daəm svaaj thom thom
私 よく見る見る 幹 マンゴー 大きい
dael mèən plae stɔ̀ə bak mèɛk
(関係代名詞) ある 実 ほとんど 折れる 枝
<枝が折れんばかりに実ったマンゴーの樹々を見つめた> (KMV)

(16) nəv haaŋ nih mèən kaafee cɲaɲ cɲaɲ nah
に 店 これ ある コーヒーおいしい とても
<この店にはおいしいコーヒーがある>

名詞を修飾する形容詞の反復は可能であっても，名詞と形容詞で構成された名詞句を反復させた例（12b）は不可能である．このことは，例（7），（9）で名詞と名詞で構成された名詞句が反復可能であったことと異なる．

(12b) *srəj sʔaat srəj sʔaat
女 美しい 女 美しい
<美しい女たち>

以上のことから，名詞句内では，①形容詞のみを反復することも，名詞，形容詞の双方をそれぞれ反復することも可能であるが，②名詞と形容詞で構成された名詞句を反復することはできない．また，③形容詞を反復することで，複数を明示するというより，さまざまな種類のものが存在することを表すと考えられる．

3.2. 形容詞の強調を表す場合

先行研究では反復することで形容詞の意味が強められるとしていたが，次の例（17）では，形容詞の意味を強めているとも考えられるが，コーヒーが何杯であるかは文脈によって判断される．例（18）は，どのような甘さであっても甘い菓子であればいい，とさまざまな菓子を表す意味になる．

（17）　ɲam　kaafee　kdav kdav　haəj
　　飲む　コーヒー　熱い　～た
　　＜とても熱いコーヒーを飲んだ（から今は暖かくなった）＞

（18）　kɔət　cool　cət　nòm　pʔaem pʔaem
　　彼　入る　心　菓子　甘い
　　＜彼は甘い菓子が好きだ＞

名詞が一般に一つしか存在しないもの（この場合は/prɔɔpɔ̀n/＜妻＞）を表す例（19）でも，形容詞の反復はその意味を強めるわけではない．また，例（20）のように複数の友人がいる場合には反復可能な形容詞/kpɔ̀h/＜高い＞は，＜一人がとても背が高い＞という例（21）では反復できない[22]．Jacob (1968)は形容詞の反復による強意の例として例（22）を挙げ，＜一つのとても高い遺跡＞としているが，例（22）から/praasaat/＜遺跡＞を/daəm chə̀ə/＜樹木＞に替えることはできない．例（22）は，通常カンボジアの遺跡には複数の尖塔があるため，尖塔の高さがさまざまであることを示していると考えられる．

（19）　prɔɔpɔ̀n　kɲom　sʔaat sʔaat　nah
　　妻　私　美しい　とても
　　＜私の妻たちは美しい＞

（20）　kɔət　mèən　puok maak　kpɔ̀h kpɔ̀h
　　彼女　いる　友人　高い
　　＜彼女には背の高い友人たちがいる＞

（21）＊ pdəj　kɔət　kpɔ̀h kpɔ̀h
　　夫　彼女　高い
　　＜彼女の夫はとても背が高い＞

（22）　praasaat　muoj　kpɔ̀h kpɔ̀h
　　遺跡　1　高い
　　＜高い遺跡＞　Jacob（1968）

さらに，例（11）と同様に，次の例（23）は，形容詞を反復しない場合と比べ，服の色が赤いとは明確に確認できない場合に用いられる．

（23）　kɔət　pɛ̀ək　ʔaav　krɔɔhɔɔm krɔɔhɔɔm
　　彼女　着る　服　赤い
　　＜彼女は赤っぽい服を着ている＞

以上のことから，前節で検討した通り，名詞句内で形容詞が反復されるのは，形容詞の意味を強める場合というよりは，さまざまな種類のものが存在したり，形容詞が表す意味の状態であるとは断定できないなど，何らかの多様性を表す場合であると考えられる．

4. おわりに

以上，クメール語の名詞句における反復表現について検討した結果，ヒトを表す名詞は一部の借用語や総称をのぞくと反復可能であること，モノを表す名詞も，後続する形容詞の反復は可能であること，名詞，形容詞の双方を反復することも可能であるが，名詞と形容詞で構成された名詞句は反復できないことがわかった．しかし，語彙的には反復可能であっても文脈によって制限されることが多い．反復されるのは，単に複数を明示する場合というよりも，さまざまな種類のものが存在したり，名詞や形容詞が表す意味そのものであるとは断定できないなど，何らかの多様性を表す場合であると考えられる．

本稿では名詞句における反復を扱ったが，述語となる形容詞の反復も含め，その他の反復表現に関しても本稿での考察結果を応用できるか，さらに，随伴語による反復や Jacob（1968）の挙げた統語的な反復との差異については今後の研究課題としたい．

注

1）単音節語から２音節語を派生させる造語法としての語頭子音の反復は，前方の構成要素が語ではなく，本稿では扱わない．
2）原語では，/bɔɔriʔvaasap/．Ourn ; Haiman（2000）は，随伴語は主に意味を強めるとしているが，随伴語がついてはじめて意味をもつ場合もあるとしている．
3）以下，本稿の表記は音韻表記で，坂本（1988）に従う．
4）本稿では随伴語と反復表現の差異は扱わないが，例（1a）の反復表現を随伴語をつけた/kmeeŋ kmaaŋ/に替えると（1a）の文脈では不自然である．
5）使用頻度に関する正確な統計はないが，Ourn ; Haiman（2000）は，書かれた

文章では１ページに必ず数個の随伴語が見られるとしている．現代語の小説等の資料では，随伴語は同一の語の反復の少なくとも４倍は現れるようである．
6）一例として次の例では，/rɔ̀ɔvə̀əj rɔ̀ɔvə̀əj/＜そよそよ＞は必ず反復するが，/praav praav/＜ざわざわ＞は反復せずに用いることができる．/kjɔl bɔk rɔ̀ɔvə̀əj rɔ̀ɔvə̀əj tvə̀ə ʔaoj slək ceek nə̀v kbae kot tɔ̀ŋkèc knèə lɯɯ soo praav praav/＜風＋吹く＋そよそよ＋させる＋葉＋バナナ＋に＋近く＋庫裏＋ぶつかる＋互いに＋聞こえる＋音＋ざわざわ＝風がそよそよと吹き，バナナの葉がざわざわと鳴った＞(KMV)
7）Ourn; Haiman (2000) は，同一の語の反復は扱っていない．
8）一例として/muoj/＜１＞は反復すると/daə muoj muoj /＜歩く＋１＋１＝ゆっくり歩く＞のように＜ゆっくり＞という意味になる．
9）単純な反復として/baat baat/＜はい，はい＞，/chɔ̀p chɔ̀p/＜とまれ，とまれ＞などの例を挙げ，意味的に単独の語の意味の強化であるとしている．他に，/lʔɔɔ/＜良い＞の間に/kɔɔ/＜も＞を挿入した/lʔɔɔ kɔɔ lʔɔɔ/＜とても良い＞など内挿的反復や，複数の語の連続の反復を挙げている．
10）日本語の「々」のように，正書法でこの反復を表す記号/lèek tòo/が存在する．しかし，この記号は本稿で扱う反復表現以外にも，複文で前文末の名詞（目的語）が後文頭の名詞（主語）と同じ場合にも用いられる．また，この記号によってくり返されるのは１語とは限らない．
11）例の出典は末尾に記す．出典の略号は以下の通りである．KMV:Jut, Kai. 2005. Kmen vatt.RSK:Bej, Bruan. 2002. Ruan lqa lqa samrap koma.出典が記されていないものは，直接インフォーマントから得た例である．インフォーマントとして，ウンサー・マロム氏にご協力いただいた．同氏は，1965 年タケオ州生まれ．高等教育はプノンペンで受け，その後，キューバへの留学期間の７年間を除き，プノンペンに在住．標準クメール語の話し手である．また，調査にあたっては岡田知子氏の多大なご協力を得た．両氏に感謝する．
12）以下，例文中の反復された語には下線を付す．
13）インフォーマントにとっては，/prèəh sɔŋ/＜僧＞の反復は口語的すぎるように感じられ，「念入りに教えた」という述語部分とあわないと判断した．
14）その文脈では用いられない例文には，*を付す．
15）単音節語か，それに接中辞もしくは前接辞をつけるか，語頭子音を反復させた２音節語．
16）例（5）は口語的に感じられるため，書く場合には，名詞を反復しない/dak pkaa daoj pkaa/＜置く＋花＋で＋花＞が選択される．
17）インフォーマントにとって最も一般的な犬の分類がこの２種であった．
18）/tɯk/＜水＞は/kɲom cɔŋ ɲam mhoop tɯk tɯk/＜私＋～たい＋食べる＋料理＋水＝汁もの料理を食べたい＞のように＜汁のある＞という形容詞としては反復可能であるが，/mhoop/＜料理＞は反復できない．料理は一品とも複数とも考えられる．
19）動詞/bɔŋriən/＜教える＞の間接目的語を明示する/tə̀v/＜に＞が付加されるのは，通常，名詞の連続は修飾関係にあると解釈されるため，例（1a）と異なり

文脈が特定されない場合には，/kmeeŋ/＜子ども＞が/ʔaksɔɔ/＜文字＞の修飾語ではないことを明示するためと考えられる．

20）花柄以外の柄の場合には，柄を表す名詞の前に/ruup/＜形＞が必要である．

21）名詞のみを反復させる/srəj srəj sʔaat/＜女＋女＋美しい＞は，名詞句ではなく，/sʔaat/＜美しい＞が述語となる＜女たちは美しい＞という文であると解釈される．

22）同様に例（15）から/daəm svaaj nih thom thom/＜幹＋マンゴー＋これ＋大きい＞と形容詞を反復して＜この１本のマンゴーの木はとても大きい＞とすることはできない．しかし，/biə nih trɔɔcɛ̀ək trɔɔcɛ̀ək/＜ビール＋これ＋冷たい：このビールはよく冷えている＞のように，述語としての形容詞が反復できる例もある．ビールは複数杯であると解釈されるのだと考えられる．

参考文献

Huffman, Franklin Eugene. 1967. *An Outline of Cambodian Grammar*, A Thesis presented to the Faculty of the Graduate School of Cornell University for the Degree of Doctor of Philosophy.

Jacob, Judith M. 1968. *Introduction to Cambodian*, London : Oxford University Press.

Khin, Sok. 1999. *La grammaire du khmer moderne*, Paris : You-Feng.

Nuon, Put; Nhok, Thaem. 1955. *Vithii prae vannayutti nin khandhasanna (Accents et signs de ponctuation)*, Phnom Penh : Pannagar put chan.

Ourn, Noeurng; Haiman, John. 2000. “Symmetrical Compounds in Khmer”, *Studies in Languages*, 24:3. pp.483-514.

坂本恭章. 1988. 「クメール語」,『言語学大辞典第１巻世界言語編（上)』pp.1479-1505. 亀井孝，河野六郎，千野栄一編. 東京 ：三省堂.

上田広美・岡田知子. 2006. 「クメール語の名詞句構造」『東南アジア諸言語の名詞句構造』pp.45-87. 東京 :慶應義塾大学言語文化研究所.